

# Structure Kansai No.78 2003.7

J S C A 関西ホームページ <http://www.mmjp.or.jp/jsca-kansai/>

## 平成15年度 (社) 日本建築構造技術者協会関西支部 支部総会5月21日開催



関西支部 支部長  
本年度の活動について



関西支部 副支部長  
好 敵 手



関西支部 副支部長  
新任のご挨拶

株大林組  
八木 貞樹

株イオリ建築設計事務所  
谷尾 傑弘

株東畑建築事務所  
近藤 一雄

建設関係を取り巻く環境は依然厳しい状況が続き、それを反映して J S C A の会員数も 3 6 0 0 名を割り込みました。対策を本部でも考えていますが、やはり関西支部が活動を活発に行なう事が J S C A 全体の活性化に繋がるものと確信しています。

支部事務局を今まで一部会員のボランティアとアルバイト1名で運営して参りましたが、これ以上の活動を行なうには現体制のままでは支障が生じます。西日本の支部活動の充実のためにも本部事務局員の大坂駐在が検討されて、日々実現の運びになりそうです。

また昨年度、事業委員会を中心に「支部活動の活性化」の施策を6件提案して頂きました。全て実施の方向で予算措置を行なっています。①総会と懇親会の活性化②新年会の実施③社会への還元と啓蒙活動④分科会活動の活性化⑤若手育成講座の充実⑥サテライト活動への支援です。⑦の一環として阪神・淡路大震災が起きて再来年の1月で10年目を迎えます。大震災の記憶を風化させないためにも、J S C A 関西支部の義務としてもとの思いで、「震災10周年記念事業企画委員会」を立ちあげ、記念事業の企画立案を始めています。この企画に積極的に参加して頂ける会員を募集しています。事務局に是非ご連絡下さい。

私には4歳になる外孫が広島県に居る。3歳になる頃からトランプ遊びでカードを裏がえしてならべ表に向けて数を合せる「神経衰弱」を覚えた彼女が来る度に付き合わされる。3歳当時は適当にしていたが最近遊びに来た時は本気になんでも油断してたら負ける時がある。おそらく数年したら太刀打ち出来なくなると思う。

同じ業をしていて当協会会員でゴルフ仲間でもあるM・K・Y氏と私を含め4人で(MHK)組(Y+私)とでゴルフのマッチプレーを楽しんでいる(実は真剣)。2人のホールごとのスコアの合計で勝負を決めている。OUT・INそれぞれ対抗戦でこれに負けるとある程度の出費も悟りしなければならない。いかに仲が良くても絶対負けられない。

東北地方に震度6弱の地震(三陸沖地震)が起った。被害は比較的少なかった様だ。無力感に付きまとわれながら教訓を少しずつ積上げた結果かもしれない。「相手がなすがままに任せる数秒間」でも長く感じる事は我々も阪神大震災で経験している。この御しがたい自然界の大地の震動から「生命と財産」を保証出来るのだろうか。

80年以前の建物の耐震強化を計る事が言われている時。再度JSCAからの提言を声を大にして発信する必要がある。

震災10周年に向けて企画されている事業に期待したい。

95年に「明るく元気な関西支部」の事務局長を侯野さんより引継ぎ、99年から技術委員長を務めてまいりましたが、この度、関西支部副支部長長を仰せつかり緊張しています。

構造技術者職能を広く社会に認知してもらうことを目的に、一般市民との対話を積極的に行なうことを想定して、昨年度より建築技術に連載して参りました「建築構造用語集」が、秋には装いも新たに出版される予定です。また、歴史的建造物の宝庫という当支部の特色を生かして、木構造分科会では伝統的木造建造物の保存修復の研究を行なってきました。阪神・淡路大震災を目の当たりにした経験から、構造技術者が敢えて、関わることの少なかつた木造軸組構造の新しい耐震設計法の提案にも関わってきました。今後は積極的に「木造建築物の耐震診断および耐震補強設計業務」を受託して社会資本のストックに貢献したいと考えます。

また、今夏より大阪事務所が開設されました。会員によるボランティア運営の妨げとなっていた事務処理の負担が軽くなり、活動の活性化がはかれるものと期待されます

より一層、広く一般市民や行政など社会と直接のかかわりを大事にしていきたいと考えています。



事業委員長  
新任のごあいさつ

清水建設㈱  
小林 勝一

今年度から辻さんの後任として事業委員長に就任いたしましたのでよろしくお願いいたします。今年度も例年好評を得ています見学会・若手構造技術者育成講座・海外視察研修などを計画しています。更に2005年1月17日の震災10周年にむけて既に記念事業企画委員会が設置され準備が始まりました。また昨年度議論を重ねてきました「関西支部の活性化」の施策についても新年会と講演会や研究発表会等を組合せて開催し、情報収集と懇親を深める機会を計画するなど出来るものから手を打っていくつもりです。

一方JSCAの役割と活動が社会に幅広く理解され、期待されることが活性化の糧であることは周知の事実であります。この長期的テーマにむけて微力ではありますが一歩でも前進できるよう、また会員の皆様に納得していただけるよう頑張りますので、ご支援をお願いいたします。



技術委員長  
構造技術の関西発信に向けて

(株) 鴻池組  
櫻原 健一

JSCA関西が発足して今年で15年目になりますが、その間に1995年には未曾有の災害である阪神淡路大震災を経験し、2000年には地方分権一括法の施行に続き建築基準法の大幅な改正が行われました。JSCAは建築構造に関する高度な専門家集団であり、なかでも近年最大の震災を経験した関西の構造技術者の社会的役割がますます重要になってきました。地域に暮らす人々の安全確保や建築事業における様々な技術的問題の克服に貢献することがもとより構造技術者の責務であります。

現在JSCA関西には技術委員会のもとに9つの分科会があって、それぞれ専門分野での情報交換や構造技術に関連した活動を精力的に行っておりますが、今後は技術委員会におけるこれらの分科会活動を有機的に連動し、関西発信型の構造技術が建築界のみでなく外の社会へ向けても有効に機能できるよう努力する所存でございます。



広報委員長  
2003年度に向けて

株日建設計  
多賀 謙藏

昨年、前岡本委員長より広報委員長を引き継いで早1年が過ぎました。主な活動であるストラクチャーKansai誌の発行は広報委員各位の手作りによるもので、20年近くにわたって脈々と情報を発信してきた歴史あるものです。情報媒体が劇的に変化する中で、手作り誌の味を保つつ、会員諸氏のニーズに対応的射た情報を発信し続けたいと考えています。

その一環としてアンケート調査等も実施していますが、皆様からのご要望も忌憚なくお寄せいただき、より充実した会誌としていきたいと思います。

一方、1998年に立ち上げたJSCA関西のホームページは諸般の事情により新鮮な情報発信源としての維持更新がままならず、皆様の期待にお応えできていません。ボランティアの限界も感じて体制作りに苦慮しているところです。今暫くご辛抱願います



建築構造用語集編集委員長  
構造設計を分りやすく

㈱竹中工務店  
岡本 達雄

構造設計技術も専門分化が進み、研究内容は高度になり、それに伴って難解になってしまった。しかし、性能設計への移行は、官制基準に準拠していることを説明することではなく、建築家やクライアントに構造設計内容を直接分りやすく説明する機会を増やしてきています。

そのような状況の中、構造設計者にのみ通じる構造設計用語をできるだけ平易に解説し、建築家やクライアントに理解を深めていただけるようにすることを基本方針にして、本委員会では、技術委員会を中心としたJSCA関西支部の皆様の協力を得ながら、すでに本年6月までに31の建築構造用語の解説を建築技術に連載して参りました。

読者の方々には好評のようで、いよいよ今年の秋には用語を100程度に増やして単行本を発行する予定となりました。関西支部の皆様方にはさらなるご協力をよろしくお願い申し上げます。



震災10周年記念事業  
企画委員長

震災10周年に向けて  
鹿島建設㈱  
辻 幸二

阪神大震災から8年半が過ぎようとしています。神戸の街並みの中には震災の面影を残すものが少くなりつつあります。使命感に燃えて、復旧・復興に走り回っていたのが、昨日のような気がし、遠い昔になったような気もします。

JSCA関西支部では、震災10周年を迎えるにあたり、記念事業を企画することにしました。建物の耐震安全性の確保が最も大事な使命である我々構造技術者として、どのような記念事業が望ましいのか、この1年企画を進めたいと思います。あの傷ましい震災の教訓を今後の耐震安全性向上に活かして、広く社会に貢献できるような記念事業にできれば幸いです。そのためには、できるだけ多くの方々の協力が必要です。皆様方のご協力をお願いします。企画のアイデアをお持ちの方、又は企画運営に参画を希望される方は、事務局までご連絡下さい。

## ● 祝！！ 新建築構造士誕生

JSCA関西支部では、2002年度に13名の建築構造士が新たに認定されました。

次の写真は、5月21日の関西支部総会に出席した新建築構造士の紹介をしている場面です。



# 2003年度定例研究会報告

## －サブストラクチュアの構造デザイン－



(株) 安井建築設計事務所  
森高 英夫  
(構造計画分科会・主査)

### 1. はじめに

今年度の定例研究会は構造計画分科会が担当しました。当分科会の活動は建築物の構造計画コンセプトや構造デザインを切り口に、実際の建物の事例紹介とその後のディスカッションを通じて互いの技量を高め合うことを目的にしています。

昨年の7月から、“どのような企画が関西支部の会員にとって有益になるか”をテーマに、当分科会の有志で時間をかけて議論してきました。その結果、設計する機会の少ない大空間構造、超高層建築およびメガストラクチャなどの特殊な主体構造（メインストラクチャ）をトピックに取り上げるよりも、日常において設計する機会の多いサブストラクチャの事例を紹介しようということになりました。

また、もうひとつの話題として研究会後半で“ガラス”を取り上げることにしました。透明で軽快感にあふれるガラス建築は、1990年代から日本の建築界を席巻しており、最近ではガラスを構造体として利用しようとする動きもあります。今後、構造設計者もガラスに関わる機会が増えてくるのではないか？今回、ガラス技術に関する正しい知識と最新の知見について広く学ぶために、旭硝子ビル建材エンジニアリングの協力を得ることができました。この内容については、10月発刊予定のStructure Kansai No. 79で紹介される予定です。

### 2. サブストラクチャの構造デザイン

サブストラクチャという言葉に明確な定義はありませんが、ここではメインストラクチャに付属する構造体とし、階段、キャノピー、屋根、外壁ファサード、渡り廊下および工作物などを構成する構造を指しています。サブストラクチャは、窮屈な耐震計画などの制約から解放され、比較的自由に設計できる構造システムです。これらのなかで、建築家・デザイナーとの積極的なコラボレーションにより構造体をうまくデザインした事例をできるだけ多く集め、当日の配布資料として編集・

作成しました（図1）。



図1 配布資料の表紙  
(表紙デザイン 山浦晋弘氏)

### 3. 定例研究会の概要

定例研究会のプログラム内容を以下に記します。

(1) 趣旨説明：森高 英夫  
(安井建築設計事務所)

(2) 設計例

- ① 階段：辻 幸二（鹿島建設）
- ② キャノピー：小倉 正恒（清水建設）
- ③ 屋根・スラブ：山浦 晋弘  
(安井建築設計事務所)

- ④ 外壁：嶋崎 敦志（大林組）
- ⑤ 渡り廊下：藤井 彰人（大林組）
- ⑥ 工作物：北條 稔郎  
(北條建築構造研究所)

- ⑦ モニュメント・その他：林原 純子  
(構造フォルム)

(3) 講演「ガラスの最前線」：舟岡 努  
(旭硝子ビル建材エンジニアリング)

当日は約180名の会員が集まり、多賀賀蔵氏（日建設計）の巧みな司会により熱気にあふれた定例研究会となりました。紹介した作品は計67例で、その多くはJSCA関西支部の会員が関わったものです。何れの作品も小規模でもキラリと光る構造デザインで、それぞれ下記のような特徴があります。

- ① 構造のあり方と意匠表現がうまくマッチしている。
- ② 力の流れが明快で造形的に美しい。
- ③ 素材の性質が活かされている。

建築家・デザイナーはサブストラクチ

ュアに対して、多様なイメージを持っています。たとえば、浮遊感、飛翔感、軽快感および透明感などがあります。構造設計者はこれらのイメージを実現させるために、繊細で小さな構造部材やガラス材を工夫して使用したり、吊り構造システム、制振デバイスおよびプレストレス構造などの構造技術を駆使したりして構造体をデザインしています。以下に、魅力的なサブストラクチャの代表的な事例を各部位ごとに簡単に紹介します。

### 3.1 階段

□水盤に浮かぶ階段（Hoop：構造設計／竹中工務店）、写真1に示すように、階段踊り場は、1本のステンレス無垢材で支持され、さらに偏荷重および振動防止のために3組の強化ガラスが効果的に配置されています。これによって、浮遊感と広場の視認性を高めた階段となっています。

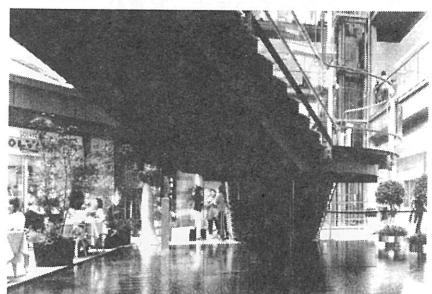


写真1 踊り場部分の支持

□プレキャスト版を重ね合わせた螺旋階段（京都大学桂キャンパス：構造設計／日建設計）、さらさら軒も支柱もない螺旋階段（写真2）で、厚さ15cmのプレキャスト版を縦方向に少しづつずらせながらPC鋼棒で圧着しており、先進性を感じさせるデザインとなっています。

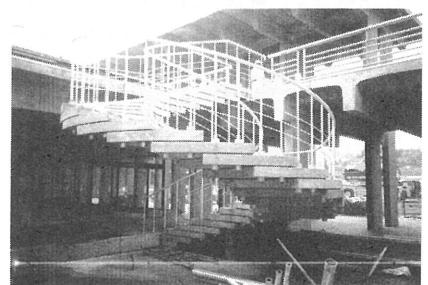


写真2 プレキャスト圧着工法による  
螺旋階段

### 3.2 キャノピー

□浮遊感漂うプレート（堂島川シティハウス：構造設計／鹿島建設）、柱および雨樋を排除して紙が浮遊したようなイメージとなっており、集合住宅のエントランスの”引き”を演出するために8mの長さに挑戦したキャノピーです（写真3）。

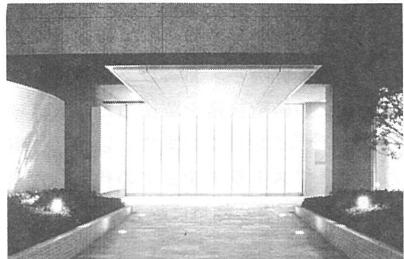


写真3 浮遊する玄関キャノピー

□V字柱で軽快に支持された玄関キャノピー（サントリー高砂工場：構造設計／安井建築設計事務所）、鋼管をV字形独立片持ち柱構造とし、100mm厚のアルミニウムパネルをテンションロッドで吊ったキャノピーで、軽快感と先進性を目指したデザインとなっています（写真4）。

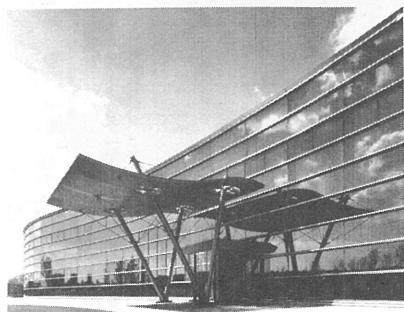


写真4 正面玄関キャノピー

### 3.3 屋根・スラブ

□張力安定トラス構造を採用した膜屋根（ハイアットリージェンシー大阪・屋外チャペル：構造設計／大林組）、4点で支持された張力安定トラス構造と透過率の高い酸化チタン光触媒コーティング膜で構成された屋根で、軽快で開放感のある空間を提供しています（写真5）。



写真5 張力安定トラス構造の屋根

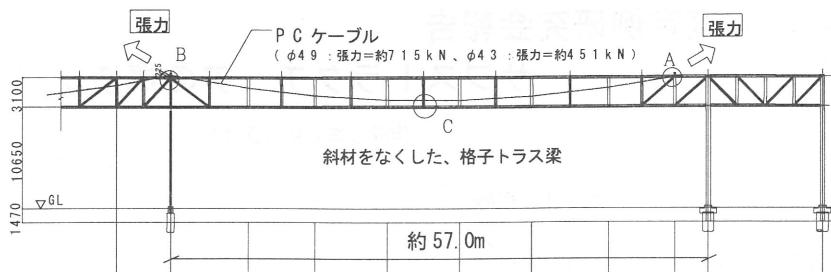


図2 アーケード構造体断面図

□格子トラスの大スパンアーケード（伏見大手筋アーケード：構造設計／大成建設）、商店街の店舗前の柱位置を最大間幅57mとした格子トラスとPC鋼材による外ケーブル方式の構造体です（図2）。これにより、明るく快適な大空間を創出しています（写真6）。



写真6 アーケード細部

### 3.4 外壁

□店舗兼駐車場ビルの外装材（興亜神戸ビル：構造設計／大林組）、高透過大板ガラスを使った高さ8mのガラスカーテンウォールで、風圧力はガラスを鋼材で挟み込んだリブガラスで抵抗させています。フェイスガラスはシリコンで突合せ接着されたダブルスキン構造で、旧居留地の歴史的町並みに配慮した外観を演出しています（写真7）。

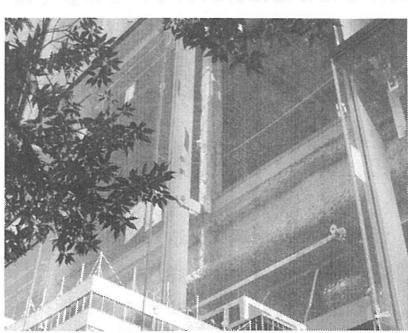


写真7 カーテンウォール・リブガラス

□曲面DPGのダブルスキンファサード（文化フォーラム春日井：構造設計／安井建築設計事務所）、日本で初めて挑戦した大断面曲面ガラス壁のダブルスキン構法とテンションワイヤートラスで構成された約1,200m<sup>2</sup>のアトリウムです。透明感と先進性を感じさせるデザインとなっています（写真8）。

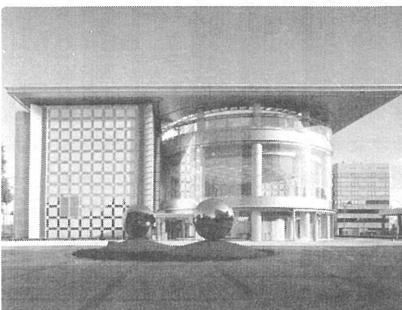


写真8 大断面曲面ガラスのファサード

### 3.5 渡り廊下

□旧居留地の渡り廊下（震災復興ビル：構造設計／奥村建築構造事務所）、少し太めのパイプをU字形に加工し、スパン中間部の1箇所だけに支持点を設けた吊り構造です。写真9に示すようにオブジェと化した白い円弧を持つ、安定感のある構造が特徴的なデザインとなっています。



写真9 外観

□ガラスチューブのブリッジ（HEP FIVE：構造設計／竹中工務店）、真赤な大観覧車がシンボリックなHEP FIVEの内部にある渡り廊下です。鋼管を用いたチューブトラス架構による透明なブリッジのデザインが特徴で、非日常的で、不思議な空間を演出しています（写真10）。

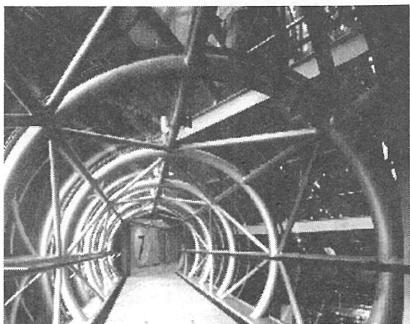


写真10 ブリッジ架構の内部

### 3.6 工作物

□風力発電（木）機（ECOの木：構造設計／トリスミ集成材）、耐腐朽性の高い自然木ウェスタンレッドシダー（直径500mm）を中空にし、構造用鋼管と一体化したハイブリッド構造です。架構は、独立片持ち柱形式で、樹木をデザインモチーフにした風力発電システムです。（写真11）。

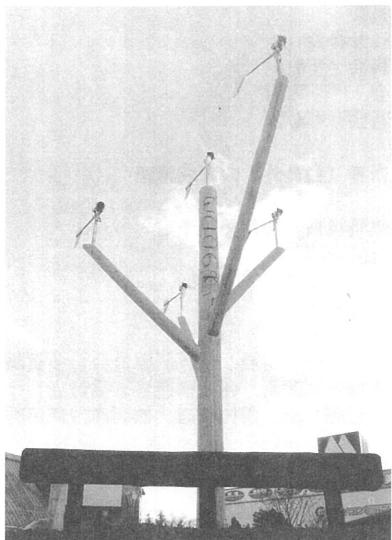


写真11 ECOの木外観

□ステンレス配水塔（東部配水場場内配水塔：構造設計／北條建築構造研究所）、直径約15m、高さ約38mの巨大円筒シェル構造で、容量1,000m<sup>3</sup>の上部水槽と容量1,600m<sup>3</sup>の下部配水池を有しています（写真12）。円筒シェルの座屈解析やFEM弾塑性地震応答解析などの高度な技術が用いられています。

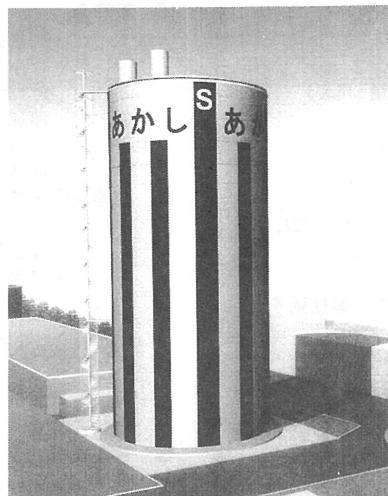


写真12 完成予想図

### 3.7 モニュメント・その他

□ガラスの記念碑（三省堂故上林英一名誉相談役記念碑：構造設計／大林組）、高さ約3m、一辺150mmのガラスボックスの記念碑です。ガラス柱は厚さ10mmの強化ガラスをコーティングにより接着してボックス形状にし、必要な強度と剛性を確保しています（写真13）。

ガラス柱には、照明が内蔵されており、夜になると優しい光の柱に変化します。



写真13 ガラスの記念碑（近景）

□化粧材の長押を構造材に（円福寺本堂：構造設計／清水建設）、現代の木造軸組構造では、長押は化粧材にしか使われていませんが、伝統木造では構造材とされていました。

今回、柱－長押接合部に6寸和釘による補強を加えて、構造部材としての効果を実験（写真14）で確認し、利用されています（写真15）。

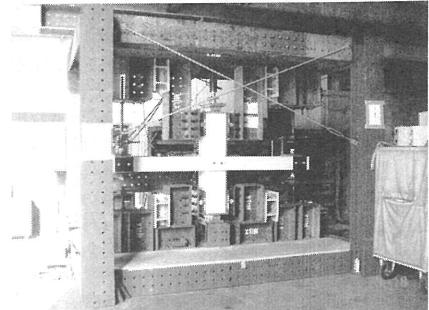


写真14 柱-長押接合部の実大実験

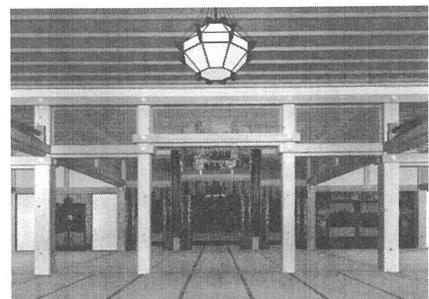


写真15 内観パース

### 4. おわりに

残念ながら紙面の都合で、一部の設計事例しか紹介できませんでしたが、ユニークな発想を高度な構造技術とデザインマインドで実現した作品が多くありました。すぐれた構造デザインを目指すには、造形力や感性だけでなく、多様な設計因子に配慮するバランス感覚や思考力、さらには対人などの能力が求められます。構造設計者はこれらの能力を自ら養っていく努力が必要です。

最後に、定例研究会開催の準備に多大な協力をしていただいた構造計画分科会、有志の方々ならびに原稿執筆を快く引き受けたJSCA会員の方々に厚くお礼申し上げます。また、当分科会によって編集・作成された資料が日常の設計業務の参考になれば幸いに思います。

今年度7月から構造計画分科会の主査は、筆者から大林組の嶋崎 敦志氏に交代します。新主査のもと、当分科会の活動がますます活発化していくことを期待しています。

## J S C A 関西支部 2002 年度事業報告

(2002年4月～2003年3月)

1. 2002年度支部総会 5/17建設交流館グリーンホール  
出席者：41名（委任状235名）
2. 支部役員会 4/26, 11/8
3. 事業委員会 4/17, 5/10, 7/26, 11/1
4. 技術委員会 4/17, 11/14, 3/12
5. 広報委員会 4/9, 7/10, 10/9, 1/15
6. 建築構造用語集編集委員会 4/19, 6/21, 7/19, 10/23, 11/21, 12/19, 1/22, 2/3, 3/12

### 7. 定例研究会

- ・報告会「基礎設計資料集と新しい基礎の制御技術を用いた基礎構造の事例」  
5/17参加者：164名

### 8. 見学会

- ・現場見学会「樟葉タワーシティ」6/26 参加者：85名
- ・現場見学会「新関電ビル建設工事」11/22 参加者：56名

### 9. 技術委員会各分科会

- ・地盤系分科会 4/10, 6/26, 8/28, 10/16, 12/11, 2/12
- ・R C 分科会 5/14, 7/15, 9/24, 11/19, 1/23
- ・鉄骨系分科会 5/31, 8/6, 10/30, 12/13, 1/24
- ・情報システム分科会 4/23, 7/24, 10/23, 1/22
- ・耐震設計分科会 5/29, 9/5, 3/20
- ・工業化・P C 分科会 7/29, 9/27, 11/29, 3/13
- ・構造計画分科会 5/31, 7/24, 9/26, 12/6, 1/29, 2/20
- ・木構造分科会 4/1, 4/4, 7/23, 8/22, 9/10, 9/17, 9/27, 10/31, 12/7, 2/24
- ・構造性能分科会 5/9, 8/8, 11/7, 12/9, 2/19

### 10. 教育活動

- ・若手構造技術者（会員外）の育成講座12/11参加者17名  
場所：Y M C A会館

### 11. 海外視察研修

- 「北スペイン・ポルトガル建築視察」  
7/6～7/14参加者：24名

### 12. 支部報

Structure Kansai No. 73, 74, 75, 76

### 13. サテライト活動

- ・兵庫会  
勉強会「限界耐力設計の実務と問題点」8/28  
講師：福山大学 南宏一教授
- 勉強会「コンクリート構造物の耐久性について」10/3
- 勉強会「建築物の長寿命化と技術対応について」11/28
- 勉強会「循環型社会における建築生産」1/30  
講師：大阪工業大学 二村誠二助教授
- ・京滋会  
講演会「鉄骨造——これかららの課題」12/6  
講師：大阪大学 甲津功夫教授
- ・奈良会  
見学会「ニッタ株式会社工場」9/27

### 14. 他団体への委員・講師の派遣

#### 委員の派遣

- ・大阪府防災センター「耐震改修評価委員会」多賀謙蔵
- ・(財)日本建築総合試験所「各種構造審査委員会」

大和田精一、近藤一雄、松岡洋、森田秀喜、山本豊弘

#### 講師派遣

- ・大阪建築物震災対策推進協議会「応急危険度判定講習会」  
9/20, 11/22, 12/19, 3/20  
森高英夫、西邦弘、渡辺勲
- ・大阪建築物震災対策推進協議会「応急危険度判定更新講習会」10/17, 2/20 藤田佳広
- ・「耐震診断・改修指針（R C造）講習会」（大阪）  
11/14, 11/15 多賀謙蔵、平山文宣、樺原健一、八木貞樹、前野敏元、田中勉、和泉一義
- ・「耐震診断・改修指針（R C造）講習会」（津）  
3/5, 3/6 多賀謙蔵、松尾雅夫、樺原健一、八木貞樹、前野敏元、田中勉、和泉一義
- ・「耐震診断・改修指針（S造）講習会」（大阪）  
10/24, 10/25 奥本英史、黒木康文、椿英穎、国本正男
- ・建築士会主催「建築士のための指定講習会」  
2/21, 2/27, 3/5 小林勝一

### 15. 親睦会

- ・懇親会5/17参加者：92名
- ・ゴルフ親睦会 5/15センチュリー吉川ゴルフ俱楽部  
参加者：39名
- 11/13泉南カントリークラブ参加者：38名
- ・団碁親睦会11/16団碁サロン「刻」参加者：17名

### 16. 関連団体との交流

- ・建築関連14団体事務局会議 9/27, 3/18
- ・建築関連14団体会長・支部長ご餐会 10/31
- ・建築関連14団体2003年新年交札会 1/6

## J S C A 関西支部 2003 年度事業計画（案）

(2003年4月～2004年3月)

1. 2003年度支部総会 5/21 建設交流館グリーンホール
2. 支部役員会 5/7
3. 事業委員会 4/30
4. 技術委員会
5. 広報委員会 4/9
6. 建築構造用語集編集委員会 4/8, 5/9  
建築構造用語事典連載（建築技術2002/4～2003/9）その後、  
単行本を10月に発刊予定。
7. 震災10周年記念事業企画委員会
8. 講習会
  - ・「木造軸組の新しい耐震設計と改修の事例講習会」4/24  
参加者174名（内関係者20名）大阪府建築健保会館6階
  - ・講習会：1月開催予定
9. 定例研究会 5/21  
「サブストラクチャの構造とデザイン」——構造計画分科会主催
10. 見学会

- ・「シティタワー大阪」6月末～7月初に開催予定

11. 技術委員会各分科会
  - ・地盤系分科会
  - ・R C 分科会
  - ・鉄骨系分科会 4/21
  - ・情報システム分科会
  - ・耐震設計分科会
  - ・工業化・P C 分科会
  - ・構造計画分科会 5/8
  - ・木構造分科会
  - ・構造性能分科会 4/24
12. 教育活動
  - ・若手構造技術者（会員外）の育成講座
13. 海外視察研修
  - 「バルト三国建築視察」10月開催予定

14. 支部報
  - Structure Kansai No. 77, 78, 79, 80
15. 他団体への委員・講師の派遣

#### 委員の派遣

- ・大阪府防災センター「耐震改修評価委員会」多賀謙蔵
- ・(財)日本建築総合試験所「各種構造審査委員会」  
大和田精一、近藤一雄、西村清志、松岡洋、森田秀喜

#### 講師派遣

- ・大阪建築物震災対策推進協議会「応急危険度判定講習会」
- ・大阪建築物震災対策推進協議会  
「応急危険度判定更新講習会」
- ・「耐震診断・改修指針（R C造）講習会」
- ・「耐震診断・改修指針（S造）講習会」
- ・建築士会主催「建築士のための指定講習会」

### 16. 親睦会

- ・懇親会 5/21
- ・関西支部新年会1月開催予定
- ・ゴルフ親睦会 5/13奈良スポーツ振興カントリー俱楽部  
・団碁親睦会

### 17. 関連団体との交流

- ・建築関連14団体事務局会議
- ・建築関連14団体会長・支部長ご餐会
- ・建築関連14団体2004年新年交札会 1/5

### 18. サテライト活動

京滋会、兵庫会、奈良会

2002年度 収支報告書(自2002年4月1日 至2003年3月31日)

単位:円

	科目	予算	決算	実行率	備考
収入の部	交付金収入	6,135,173	6,135,173	100%	建築技術原稿料 懇親会会費
	研究会費	100,000	0	0%	
	研究受託費	150,000	155,400	104%	
	懇談会費	500,000	560,000	112%	
	受取利息	500	321	64%	
	雑 収 入	14,327	4,475	31%	
	収入合計	6,900,000	6,855,369	99%	
支出の部	消耗品費	50,000	47,404	95%	記念事業積立金～
	通信事務費	100,000	57,448	57%	
	委員会費	900,000	534,847	59%	
	研究会費	1,000,000	680,281	68%	
	研究受託費	100,000	510	1%	
	懇談会費	500,000	531,946	106%	
	会誌発行費	1,000,000	916,570	92%	
	記念事業積立金	1,000,000	1,000,000	100%	
	涉外費	200,000	96,605	48%	
	予備費	200,000	0		
の管理費	事業費合計	5,050,000	3,865,611	77%	
	消耗品費	100,000	213,534	214%	
	通信事務費	200,000	234,595	117%	
	旅費交通費	0	0		
	雑費	200,000	272,329	136%	
	総会費	100,000	97,138	97%	
	幹事会費	50,000	59,815	120%	
	委員会費	20,000	4,600	23%	
	人件費	980,000	901,520	92%	
	予備費	200,000	0		
支理費	管理費合計	1,850,000	1,783,531	96%	
	支出合計	6,900,000	5,649,142	82%	

次年度線越金 線越金 1,206,227  
積立金 1,000,000

■ 2003年度支部役員

支部長 八木貞樹 (大林組) : 支部担当理事  
副支部長 谷尾俊弘 (イオリ建築設計事務所)

幹事 魚木晴夫 (シーアンドシー)

王文義 (昭和設計)  
大野俊夫 (奥村組)

岡本達雄 (竹中工務店)

櫻原健一 (鴻池組)

多賀謙蔵 (日建設計)

辻英一 (安井建築設計事務所) : 支部担当理事

辻幸二 (鹿島建設)

小林勝一 (清水建設)

永谷芳郎 (能勢建築構造研究所)

安田光世 (安田建築事務所)

山田裕治 (山田建築構造事務所)

監査 三原清敬 (三原建築構造設計事務所)  
渡辺勲 (大成建設)

支部顧問 青柳司 (日建設計)

内田直樹 (神戸大学)

瀬川輝夫 (竹中工務店)

久徳敏治 (竹中工務店)

馬瀬芳知 (馬瀬構造設計事務所)

真塚達夫 (東畑建築事務所)

和田勉 (和田建築技術研究所)

事務局 西村勝尚 (大林組)

阿波野昌幸 (日建設計)

太田寛 (鴻池組)

片山丈士 (竹中工務店)

角彰 (竹中工務店)

田中利幸 (竹中工務店)

安井雅明 (大林組)

石原邦子

●事業委員会

委員長 小林勝一 (清水建設)

委員 国友博司 (昭和設計)

新保勝浩 (和田建築技術研究所)

辻幸二 (日建設計)

藤井正則 (大林組)

前野敏元 (竹中工務店)

宮崎英也 (山田建築構造事務所)

●技術委員会

委員長 横原健一 (鴻池組)

委員 西邦弘 (キンキ総合設計)

阿波野昌幸 (日建設計)

藤田佳広 (大林組)

松尾雅夫 (安井建築設計事務所)

中村俊治 (大林組)

梁元勝彦 (構造計画研究所)

森高英夫 (安井建築設計事務所)

辻英一 (安井建築設計事務所)

高木和芳 (トリスミ集成材)

●広報委員会

委員長 多賀謙蔵 (日建設計)

委員 石鍋貴志 (鹿島建設)

北川良二 (大林組)

黒木康文 (熊谷組)

小島達男 (馬瀬構造設計事務所)

河野隆史 (竹中工務店)

嶋崎敦志 (大林組)

田代靖彦 (日建設計)

二宮利治 (日建設計)

畠千治 (鴻池組)

樹田洋子 (桃李舎一級建築士事務所)

松本竹史 (竹中工務店)

三原清敬 (三原建築構造設計事務所)

三輪哲也 (三輪建築構造事務所)

山浦晋弘 (安井建築設計事務所)

田中道夫 (海外特派員)

●建築構造用語集編集委員会

委員長 岡本達雄 (竹中工務店)

委員 横原健一 (鴻池組)

河野隆史 (竹中工務店)

近藤一雄 (東畑建築事務所)

辻幸二 (鹿島建設)

西村勝尚 (大林組)

二宮利治 (日建設計)

樹田洋子 (桃李舎一級建築士事務所)

八木貞樹 (大林組)

森高英夫 (安井建築設計事務所)

●震災10周年記念事業企画委員会

委員長 辻幸二 (鹿島建設)

委員 角彰 (竹中工務店)

多賀謙蔵 (日建設計)

八木貞樹 (大林組)

## ●事務局だより

支部総会および定例研究会に多数出席頂きありがとうございました。今年度より、震災10周年記念事業企画委員会を設立し、震災10周年に向けて活動を開始致します。記念事業の企画に関してご意見がありましたら関西支部事務局の方へご連絡下さい。

### 1. 2003年度支部総会

日時：5月21日（水）13：30～14：30

場所：建設交流館グリーンホール

出席者 272名（内、委任状232名）

### 2. 支部役員会

日時：5月7日（水）18：00～20：00

### 3. 事業委員会

日時：4月30日（水）18：00～20：00

### 4. 広報委員会

日時：4月9日（火）17：00～19：00

### 5. 建築構造用語集編集委員会

日時：4月19日（金）5月9日（金）

18：00～21：00

### 6. 定例研究会

「サブストラクチャの構造とデザイン」

構造計画分科会主催

日時：5月21日（水）14：45～17：50

出席者 144名

### 7. 講習会

「木造軸組の新しい耐震設計と改修の事例講習会」

日時：4月24日（木）13：00～17：00

出席者 174名

### 8. 見学会

現場見学会「シティタワー大阪」

日時：6月27日（金）15：00～17：00

### 9. 技術委員会各分科会

#### ・地盤系分科会

日時：4月9日（水）18：00～20：00

環境に配慮した工法の勉強会2

日時：6月13日（金）18：00～20：00

環境に配慮した工法の勉強会3、既存基礎の利用・再資源化技術について

#### ・R C 分科会

日時：5月15日（木）18：00～21：00

生コンの品質管理（設計者の立場から）

#### ・鉄骨系分科会

日時：4月21日（月）17：30～18：30

15年度活動方針について

#### ・構造計画分科会

日時：4月11日（金）、5月8日（木）

18：30～21：00

定例研究会の設計例について

#### ・木構造分科会

日時：4月15日（火）15：00～18：00

講習会のリハーサルおよび準備

#### ・構造性能分科会

日時：4月24日（木）16：00～18：00

建築基準法改正後の動向についての意見交換

日時：6月27日（金）16：00～18：00  
建築基準法改正後の動向についての意見・エネルギー法についての情報交換  
限界状態法の適用範囲と問題点についての情報交換

### 10. 親睦会

#### ・懇親会

日時：5月21日（水）18：00～19：30

出席者 70名

#### ・ゴルフ親睦会

日時：5月13日（火）出席者34名

場所：奈良スポーツ振興センター  
俱楽部

## ●お詫びと訂正

全号の2ページにおいて、米杉尚記氏の所属が「㈱和田建築技術所」となっておりました。正しくは「㈱和田建築技術研究所」です。ここにお詫びするとともに、訂正させていただきます。

## ●編集後記

Structure Kansaiは構造家懇談会の時代であった1982年に創刊され、以来法人としてJSCAとなってからも続けられています。人間で言えば、誕生から始まり社会人になる年月であり、JSCA会員の心と技術の糧として役立ってきていると思います。「継続は力なり」といいます。細くても堅実に永く続くこと、これは繁栄への道です。総会の記事の号にあたり、本誌も社会の動きを捉えながら情報を会員が共有し、連携と技術の向上を更に進めていく力となるよう願っています。

（三原、石鶴）

発行 (社)日本建築構造技術者協会

関西支部事務局

〒550-0003

大阪市西区京町堀1-8-31(安田ビル3F)

Tel 6446-6223

Fax 6446-6224

Mail jscaweb@kansai.email.ne.jp

## 第39回 J S C A 会成績表

順位	氏名	OUT	IN	GROSS	HDC	NET
優勝	広瀬聰	44	46	90	19	71
2	奥西太子	45	42	87	15	72
3	平見殖	46	43	89	16	73
4	川野弘二	47	45	92	18	74
5	後藤文吉	53	47	100	21	79
6	橋詰善光	44	56	100	21	79
7	丈野栄三	48	48	96	16	80
8	友田民範	52	53	105	25	80
9	長田秀二	52	53	105	25	80
10	飯田努	50	43	93	12	81
11	小松原操	52	47	99	17	82
12	馬瀬芳知	44	46	90	7	83
13	日下部弘	54	51	105	21	84
14	安田光世	48	46	94	10	84
15	長谷川薰	48	53	101	17	84
16	松谷修	52	52	104	20	84
17	北畠憲雄	53	54	107	22	85
18	前野浩平	51	59	110	25	85
19	飯田和明	47	50	97	11	86
20	河崎四郎	47	47	94	8	86
21	大須賀仁一	57	50	107	21	86
22	西村清志	57	50	107	20	87
23	新保勝浩	50	61	111	24	87
24	谷尾俊弘	53	53	106	18	88
25	仲晃一	41	51	92	3	89
26	多田光男	56	55	111	18	93
27	塩田丈二	66	64	130	36	94
28	青木仁	53	51	104	9	95
29	*吉塚昭広	65	55	120	25	95
30	藤田忠正	61	63	124	28	96
31	仲秀雄	60	56	116	19	97
32	*山口種実	58	66	124	25	99
33	福山国夫	59	65	124	24	100
34	宮崎正明	61	70	131	28	103

ペスグロ：奥西

GROSS 平均 104.9

ニヤピン：安田、広瀬、北野、前野、新保\*2、青木、仲（晃）

ドラコン：シニヤ：河崎\*2、青木\*2

ジュニア：長谷川、前野、新保、仲（晃）

次回 HD C：広瀬14、奥西13、平見15

幹事 日下部記